



# 営農サポート通信 第10号

平成29年12月 JA都城：営農サポーター（TAC）



Tとことん、A会って、Cコミュニケーション!!

本年も、営農サポーターの訪問に際し、快く接して頂き誠にありがとうございます。生産者の皆様に有益な情報をお届けできる様に努めておりましたが、ご満足頂けなかった事も多かったと考えております。平成30年度は、更なる情報収集の強化に努め、生産者の皆様に生きた情報をお届けし、多くのご意見、ご要望を頂きたいと思っております。

年の瀬は何かと慌ただしくなりますが、計画的な作業で無事に一年を終え、良い年を迎えられますようご祈念申し上げます。 営農サポーター一同

## 生産資材情報(甘藷)

甘藷用肥料・農薬・資材について、購買窓口、指導員、営農サポーターにお気軽にご相談ください。

### ◆肥料

- ・甘藷専用有機化成（4.5-14-22） 規格 20kg
- ・FTE入り甘しょBB40号（4.5-14-22） 規格 20kg



※12月1日に肥料の価格改定がありました。『甘藷専用有機化成』は価格据え置きですが、『FTE入り甘しょBB40号』につきましては、約30円の値上げとなっております。

### ◆生分解マルチ

土中微生物により、自然分解するプラスチックを使用した廃棄不要のマルチフィルムです。数量等の条件はありますが、生産者の皆さまの希望に沿った規格で製造することができます。受注生産になりますので、注文から納品まで約1ヶ月かかる場合があります。

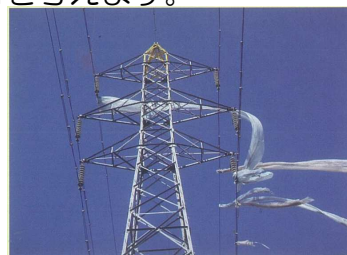
## 里芋の寒害対策について



寒くなると霜による凍傷が心配されます。赤芯等の原因となりますので、必ず土上げを行って下さい。なお、赤芯等で劣化した物は、受け入れができない場合がありますので、十分な寒害対策を行って下さい。

## 防霜シートの飛散防止について

風の強い日は、防霜シート等が飛散して電線にからまり、停電事故を起こすことがあります。停電事故が発生すると、一般家庭、医療、行政サービス等多方面に影響を与えます。



### 【停電事故を起こさない為に】

- ・使用中の防霜シート等は飛散しないように**確実に固定**しましょう。
- ・使用済のシート類は**放置せず**に、飛散しないように**固縛**しましょう。

※防霜シート等が送電線にからみついたり、垂れ下がっているのを発見されたら、**感電の恐れ**がありますので**絶対に触らないで**、下記の事業所にご連絡下さい。

連絡先：九電ハイテック 宮崎支社 都城工務所

TEL 0986-23-6124

## 緑肥作物について

緑肥作物の導入により、土壌の物理性や生物性の改善効果が確認されています。さらに『貯養作物』として地力増進と肥料効果が期待でき、化学肥料や関連資材を含めた生産コストの削減が可能になります。また、生育過程においては空気中の二酸化炭素を吸収し、土壌有機炭素として貯留したり、土壌中の肥料流亡による水質汚染を防止する働きもあり、地球温暖化防止にも貢献しながら、環境に配慮した農業が実現できるとのことです。

### 【緑肥作物の導入】

◆緑肥作物をすき込むことによって、その有機物が分解され、腐植となり土壌の団粒化が促進されます。その腐植は土壌微生物の手助けによって作られます。緑肥作物の栽培中にはアーバスキュラー菌根菌や根粒菌が増え、また、すき込まれて分解することによって土壌中の微生物相が豊かになります。この豊かな土壌微生物群が後作物を健全に育てる一翼を担っていきます。

◆緑肥作物は地上部の茎葉が目立りますが、実は根も大活躍。約1m近くまで深く伸長して土壌の深部の耕盤層を壊し、透水性等を改善します。また、線虫対抗品種は深い場所に生息する線虫も捕えることができます。

◆緑肥作物は前作物の栽培中に施用されて残った肥料成分（残肥）を利用して生育します。緑肥作物を栽培しなかった場合は、その残肥が地下へ浸透して地下水の汚染につながる場合もあります。したがって、緑肥作物の栽培によって残肥を有効活用し、後作物に供給するといった『肥料のサイクル』が可能になるとともに、土壌化学性を改善する作用があります。

### 【播種方法】

手播きもできますが、肥料等を散布する際に使用する散粒機などを使うと、ムラなく短時間に播種ができます。なお、発芽や初期生育を安定させるために覆土と鎮圧を行ってください。

### 【緑肥作物のすき込み方法のワンポイント】

大きく生育した緑肥作物をすき込む際に、ローラーで踏み倒すか、トラクターの前方部分に棒等をつけて走り、緑肥作物を押し倒した状態にします。その倒れた方向と逆方向からロータリーをかけるとすき込み易くなります。



### 【分解期間の必要性】

緑肥作物をすき込んだ後、約2週間は有機物の分解に伴って、土壌pHが大きく変動します。これは有機物の分解に関わるピシウム菌等の土壌菌の急激な増減に関係すると考えられます。この土壌pHの変動からも、緑肥作物をすき込んだ後の2週間以内の播種・定植は厳禁となります。したがって、土壌pHの変動、ピシウム菌等の増殖等が落ち着き、かつ、緑肥作物の繊維が播種・定植に障害を与えない程度に分解することを考慮して、すき込み後後作物の植え付けまで、3～4週間の期間をとるようにします。

分解期間は夏場で土壌水分が十分であれば3～4週間で足りませんが、低温期には分解に時間がかかるため、分解期間を十分にとってください。

※雪印種苗株式会社資料より抜粋

**緑肥作物導入をご検討の際は、お気軽にご相談ください。各作物に合った商品(エンバク・ライムギ・ソルガムなど)をご提案させていただきます。**

(文書取扱：JA都城 営農サポーター) 事務所の電話番号は 38-6693 です

通信内容のご相談は営農サポーターまでご連絡ください